

「備後に学ぶ地域の課題」

令和元年度実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置している。平成 27 年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を設置した。設置から 5 年目の実施内容について報告する。

令和元年度の実施概要

令和元年度も前年に引き続き、福山市環境経済局環境保全課に協力いただき、芦田川をテーマにした授業を展開した（参考資料 1・参考資料 2）。講師も昨年引き続き福山市環境経済局環境保全課のト部憲登課長にお願いし、鶴崎と企画・実施した。

今年度も、昨年度までと同様、福山市が企画するふくやま環境大学の芦田川関連企画（10 月 5 日）に参加した。それまでの 2 回の講義で、目的や授業展開の方法の説明、ト部憲登氏による芦田川の現状の説明を行い、その後、2 チームに分かれ、各グループで課題の検討を行った。

10 月 5 日は、11 時 00 分に福山市役所に集合し、芦田川の歴史について「古から続く水と暮らしのかかわり」というテーマで 12 時まで講義を聴講した。昼食後、12 時 45 分に福山市役所を出発して中津原浄水場に移動し、13 時から浄水施設の見学を行った（写真 1）。浄水場見学終了後、14 時頃に芦田川見る見る館に移動し、芦田川の水を使って簡易水質検査の実習を行った（写真 2・写真 3）。15 時 30 分頃に福山市役所に戻り、解散した。

その後の講義やグループワークは、7 号館 2 階プロジェクトラウンジで行った。2 つのグループ（「チーム鯛」、「イベント考案班」）に分かれて企画を検討してもらい、企画案を作成した。（写真 4）。「チーム鯛」は芦田川の今の姿を知ってもらうために「私をよくみて知って」という題の本を作る「芦田川本の作成」企画、「イベント考案班」は小学生を対象とした芦田川河岸での川遊びのイベントやキャンプ、そして QR コードを使った芦田川沿いでのウォーキングイベントなどの「川を使った遊び、清掃」企画を考えた。11 月 13 日に授業内でそれぞれのグループの企画案について発表を行った（写真 5）。また、昨年度に続き今年度も「松永に学ぶ産業と文化」の発表会と合同で 12 月 14 日（土）にはきもの資料館 あしあとスクエアで公開成果発表会を実施した（写真 6）。

講義終了後に、Cerezo を通じて、レポート課題、授業アンケートを行った。



写真 1 中津原浄水場見学



写真 2 簡易水質検査の様子

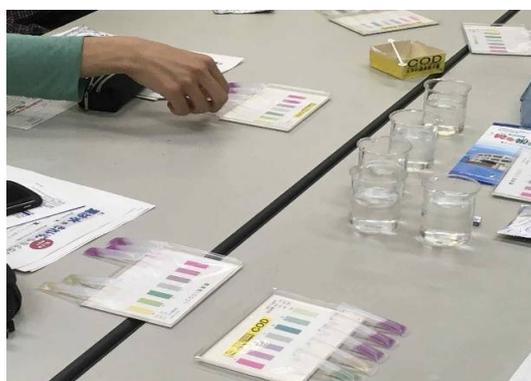


写真 3 簡易水質検査の比色の様子

令和元年度の成果・課題について 受講者について

令和元年度の受講生は、昨年度と同様、最終的には6名（履修登録者数は11名）であった。初期履修登録時（前期時点）には28名の登録があったが、履修にあたって10月15日にフィールドワークが実施されることを事前通知した結果、初回までに登録数が15名に減少した。さらに、初回到授業内容を説明した結果、2回目には大幅に出席者数が減少した。また、フィールドワークが終了してから出席（8回中5回が終了した時点）しようとした学生もおり、シラバスにも掲載し、事前通知をしていたにも関わらず、授業内容を理解して来ていない学生が多くいたように感じた。受講に際しての学生自身のシラバス内容の確認の徹底、および、履修希望者への情報提供の難しさを痛感した。一方で、少人数であったため、昨年同様、指導しやすい規模となり、学生同士の活発な意見交換もできる環境で授業を実施することができた。

成果物の作成・発表について

成果物については、昨年同様、企画案を作るところまでを課題とした。最終的な完成度においては、昨年度同様、比較的高い完成度のものを作成することができた。昨年度同様に「松永に学ぶ産業と文化」と公開合同発表会を実施したことが、適度な緊張感を生み、学生にとってもよい影響を与えたように思う。学生の積極的な意向もあり、公開発表用のスライド作りや発表の練習を授業の一環として設定することもできた。公開発表では、聴衆者から質問や意見も多くいただき、学生にとっても良い勉強となったと考えられる。

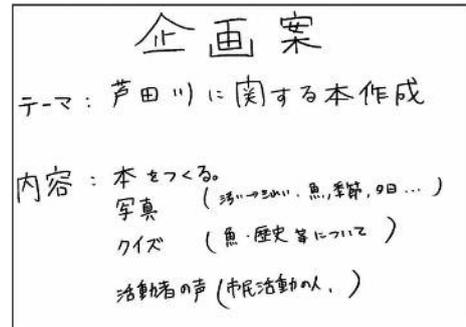
学生から提出されたレポートの中には、『（公開発表会で発表してみた結果：著者追記）改善したほうが良いと思ったことは、2つあります。1つめは、発表の仕方です。資料と同じことをそのまま伝えていたのがほとんどだったので、スライドをもう少しわかりやすく作り、発表をすれば良かったなと思いました。また、もう少し楽しく発表できたらよかったです。クイズをした時などそのままクイズを読んで、少ししたら答えを言うのではなく、手を挙げてもらうなど工夫をすれば良かったなと思いました。2つ目は、質問されたことに対してほとんど答えることができなかったのもっと詳しく調べておくべきだったと思いました。何を聞かれても答えられるように、ここは大丈夫だろうと思ったところでもしっかり調べるように次からしていこうと思います。』、『企画書・成果物作成において改善したほうが良かった点は、そのイベントがどう芦田川のイメージアップにつながるのかを、もっとアピールしたほうが良かったのかなと思います。はきもの資料館で発表したときにいろいろな質問がきたので、やはり客観的にみると納得がしづらい部分もあったのかなと思いました。質問の中でなぜ堂々川でしょうということになったのか、という質問があって、その時にたしかに堂々川と芦田川は細かくみると違う川だし、堂々川で行うイベントがどう芦田川のイメージアップにつながるのかが分かりにくいかなと思いました。』という記載もあり、受講生の成長に寄与できる取り組みとなったと思う。

各企画案がもう少し踏み込んだ内容に仕上げることであれば、芦田川のイメージアップに繋げることが可能ではないかと思われる。教養科目の性質上、継続的な取り組みには限度があると思われるが、地域貢献できる可能性が高いと考える。

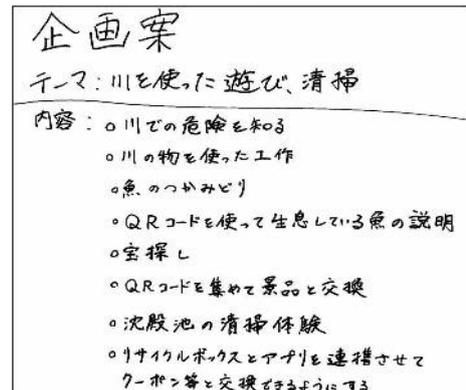
学生の授業評価

授業評価アンケートによる本講義の満足度は、概ね良好であった（満足3名・ほぼ満足2名・どちらとも言えない1名）。

授業の適切性については、「適切であった」が4名、「比較的、簡単だった」と「比較的、難しかった」が1名ずつであり、概ね学生にとって適切と思える内容であったと考えられる。



チーム鯛



イベント考案班

写真4 企画書(案)

また、学生の感想（参考資料 3）には、昨年までと同様、芦田川に関する知識が修得できただけでなく、グループワークでの積極性、主体性がいかに重要かを理解できたとの記載があり、この点については、本講義の到達目標が達成できたと思う。

令和元年度も、平成 30 年度に続いて福山市環境経済局環境保全課課長のト部憲登氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができた。また、福山市環境経済局環境保全課には、5 年続けて協力いただき、非常に感謝している。令和 2 年度は、福山市企画財政局企画政策課と協議の上、「芦田川のイメージアップ」企画と新たな企画（福山市の戦略推進マネージャー提案）の 2 つのテーマで実施する予定である。より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。

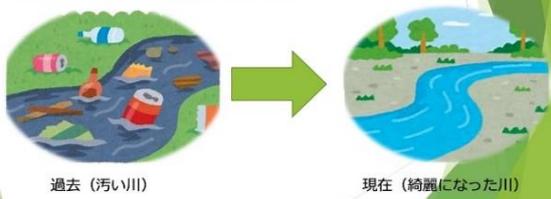


目次

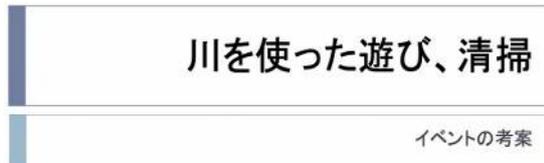
- ・はじめに
- ・こんなに変わった私・芦田川ってこんな川
- ・私に詳しくなってね！芦田川クイズ！
- ・私をキレイにしてくれた方達の声
- ・私をこれからキレイにするのは君たち！！

目標

汚いといわれている芦田川のイメージを払拭し、今の芦田川の状況や良さを伝えたい。



チーム鯛

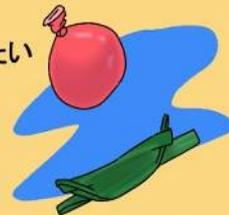


考案イベント

- ▶ 「みんなで芦田川を知る・あそぶ・守るの会」
 - ▶ 川での注意点（授業）、川に入って遊戯、川の清掃
- ▶ 「芦田川で楽しくキャンプ」
 - ▶ アユのつかみ取りやキャンプ
- ▶ 「集めよう！芦田川QRコード」
 - ▶ 芦田川周辺に設置したQRコードで勉強

川での遊び

- ▶ 川に移動し、もう一度注意を促し遊んでもらう
- ▶ 水風船や、水鉄砲、笹船、箱メガネなどを用意出来たらそれぞれ好きに遊んでもらう
- ▶ 一番時間を取ってあげたい



イベント考案班

写真 5 企画説明用スライド（一部）



写真 6 はきもの資料館での発表会

(参考資料1) シラバスの概要

| | | | |
|-------------|--|-----|-----|
| 講義名 | 備後に学ぶ地域の課題 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期・水曜・5時限 他 | 単位数 | 1単位 |
| 授業のねらい、概要 | 備後地域の様々な課題を題材に、学外調査やグループワークなどを行なうことで地域社会への貢献のあり方を考えていきます。本年度は、福山市経済環境局環境部環境保全課の協力のもとに、福山市を流れる芦田川について考えます。福山市では芦田川の水質について、報道等でワーストワンというイメージ先行で取り上げられているため、芦田川本来の良さが伝わっていないという問題を抱えています。そのイメージを払拭するための施策（アイデア）を考えます。 | | |
| 授業（学修）の到達目標 | 地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。グループワークや学外活動を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。 | | |

(参考資料2) 各回の授業内容

| 授業回 | 授業内容 |
|----------------|---|
| 第1回 9月25日 | ガイダンス（本講義の目的・進め方などの説明） 福山市を流れる芦田川の現状について |
| 第2回 10月2日 | 芦田川のイメージアップのための施策を考える1 成果物（企画書）の作成作業の準備・グループ分け |
| 第3～5回 10月5日 | ふくやま環境大学（芦田川の実態を知る） 芦田川の歴史の講義・中津川浄水場見学・芦田川見る視る館での水質調査体験 |
| 第6回 10月9日 | 芦田川のイメージアップのための施策を考える2 ふくやま環境大学での知識の整理・課題の洗い出し・課題解決方法の検討 |
| 第7回 10月16日 | 芦田川のイメージアップのための施策を考える3：成果物の構想 成果物（企画書）の構想 |
| 第8回 10月30日 | 芦田川のイメージアップのための施策を考える4：成果物の作成 施策の具体的な検討・成果物の作成 |
| 第9回 11月13日 | 芦田川のイメージアップのための施策を考える5：成果発表と討論 グループ発表・レポート課題説明 |
| 第10回 12月14日 | はきもの資料館での公開成果発表会：成果発表と討論 グループ発表・ふりかえり |

(参考資料3) 学生の感想、意見

| |
|--|
| <p>チーム内だけでなく、講義を受ける人全てが何かしらの役割を持っていて、充実していると思った。</p> <p>前期で、備後地域学を履修していた時に鶴崎先生の話で後期のこの授業について聞いた時面白そうだなと感じました。またこの福山で生まれ育ったのでこの地に愛着を持っているので、とても興味を持ちました。少人数だったので知り合いもほとんどいませんでしたが、最後にはとても仲良くなれて、楽しく発表出来ました。長く芦田川の恩恵を受けながら生きていましたが、芦田川が汚いというイメージのままであったことをとても深く感じました。これから、どこかの機会で色々な人に芦田川の良さを伝えていきたいと思いました。</p> <p>グループで意見を出し合い発表に向けてパワーポイントの作成などの作業はこれからも活用出来るのでいい授業でした。</p> <p>この講義を通して、自分のコミュニケーション能力のなさが身に沁みました。芦田川については正しい知識を得て周りに人にも芦田川はきれいなのだと伝えていきたいと思いました。それを形にする際に様々な人とやり取りすることが大変でした。しかし、だんだん追い詰められてくると嫌でも話さないとけなくなったのでそこで、少しではあるけれど、人と話す力が得られたかなと感じました。</p> <p>芦田川のことを知らなかったけど、福山市役所の占部先生の講義などを聞いて芦田川についてたくさん学べたし、イベントを考えるうえで何が大切なのかなどたくさんことを学びました。今回備後に学ぶ地域の課題を受講してよかったと思います。</p> |
|--|